

- 問1 ベトナムに進出する日本企業の数は、2010年の約500社から2020年には約2100社へと10年間で4倍以上に急増しています。日本企業が生産拠点としてベトナムを選ぶ主な理由について、現地の社会経済状況を説明したものとして最も適切なものはどれですか。（2024年 埼玉県公立入試 類似）
- 15歳未満の年少人口の割合が周辺国の中で最も低く、将来的な労働力不足を見越して自動化を推進する企業が集まっているという点
 - 近隣諸国に比べて月額賃金が非常に高く設定されており、現地の人々の購買力が向上して製品の販売市場として魅力があるという点。
 - 急速な少子高齢化の影響で若者の労働力は不足しているが、代わりにAIやロボット技術を活用した高度な工場進出が進んでいるという点。
 - 韓国などの近隣諸国に比べて月額賃金が安く、かつ15歳から49歳の人口割合が高いため、豊富な労働力を確保しやすいという点。
- 問2 フィリピンの貿易における国際的なつながりの特徴を説明したものとして、最も適切なものはどれですか。（2014年 和歌山県公立入試 類似）
- 北米自由貿易協定の影響を強く受け、アメリカやメキシコとの貿易が全体の8割を超えている
 - かつての宗主国であるスペインが、現在も輸出・輸入ともに最大の貿易相手国となっている
 - 日本、アメリカ、中国、シンガポールなど、近隣のアジア圏や太平洋周辺諸国との結びつきが強い
 - ASEAN諸国との結びつきは弱く、貿易相手国のほとんどがヨーロッパの国々で占められている
- 問3 アラブ首長国連邦から日本への輸出額の内訳において、原油や液化天然ガスなどの資源が約9割を占めている現状から推察される、日本のエネルギー事情に関する説明として最も適切なものはどれですか。（2025年 鹿児島県公立入試 類似）
- 日本は発電や輸送に欠かせない化石燃料の多くを、特定の地域や国に依存している。
 - 日本はこの国との貿易において、工業製品の輸出額よりも資源の輸入額の方が極めて少ない「貿易黒字」の状態にある。
 - 日本は国内で消費する原油の大部分を自給できており、この国からの輸入は補完的なものである。
 - 日本はこの国から、鉄鋼の原料となる鉄鉱石や石炭を、原油以上に大量に輸入している。
- 問4 ある東南アジアの国と日本との貿易統計において、日本に対する貿易収支は約1兆200億円の黒字となっています。この国の日本への輸出品目の内訳を見ると、電気機器が19.7%、機械類が14.9%と工業製品が上位を占める一方で、肉類が5.7%、魚介類が4.9%と食料品の割合も高くなっています。この国はどこですか。（2017年 群馬県公立入試 類似）
- インドネシア
 - サウジアラビア
 - ベトナム
 - タイ
- 問5 タイ王国の産業と人口密度の関係について述べた文として、背景や理由を含めて正しく説明しているものはどれか。（2023年 山形県公立入試 類似）
- 豊富な水資源を利用した稲作や、日系企業の進出による自動車産業の発達、チャオプラヤ川流域などの平野部における高い人口密度を支えている。
 - 社会主義体制のもとで計画的な農村開発が行われたため、都市部よりも山岳地帯や国境付近の人口密度が意図的に高く設定されている。
 - 国土の大部分が乾燥した高原地帯であるため、灌漑施設が整ったマレー半島沿岸部のみに限定して人口密度が高くなっている。
 - 中継貿易の拠点として発展した歴史から、国境付近の港湾都市にのみ労働力が集中し、内陸部の人口密度は極めて低く保たれている。
- 問6 インドとその周辺の年間降水量を示した統計において、ガンジス川の下流域などは年間降水量が1000mmを超える非常に多い地域として示されています。このように、インドの一部で特定の時期に降水量が急増する理由として正しいものを選びなさい。（2021年 福島県公立入試 類似）
- 冬に冷たく湿った空気を運ぶ偏西風が、インド洋から吹き込むため。
 - 夏に湿った空気を蓄えた季節風が、海から陸に向かって吹くため。
 - 夏に大陸の乾燥した空気を運ぶ季節風が、陸から海に向かって吹くため。
 - 赤道付近で発生した上昇気流により、一年中季節を問わずスコールが降るため。
- 問7 2015年の統計によると、労働者の月額平均賃金は韓国で1,895ドル、中国で578ドルであるのに対し、ベトナムでは181ドルとなっています。このような労働賃金の格差を背景に、多くの企業が製造拠点をベトナムなどの新興国へ移転させる主な理由として最も適切なものを選びなさい。（2017年 長崎県公立入試 類似）
- 現地の豊富な天然資源を直接利用することで、原材料の輸送費用を削減するため
 - 労働者の月額平均賃金が安価であることを利用し、製品の生産コストを抑えるため
 - 現地での製品販売を目的として、人口増加に伴う巨大な消費市場を確保するため
 - 高度な技術力を持つ労働者が多いため、精密機器の付加価値を高めるため
- 問8 中国の人口ピラミッドの変化を分析した次の説明のうち、正しいものはどれですか。なお、1970年の統計では若年層の割合が非常に高い「富士山型」の形をしていましたが、2020年の統計では0歳から14歳の割合が大幅に縮小し、65歳以上の割合が厚くなっています。（2024年 福島県公立入試 類似）
- 人口抑制政策の影響などにより、少子高齢化が急速に進展している。
 - 乳幼児の死亡率が高まったため、ピラミッドの裾野が狭まっている。
 - 出生率が極めて高いため、将来的に労働力人口が過剰になることが予想される。
 - 経済成長に伴う労働力不足を補うため、若年層の移民が急増している。
- 問9 アジア州とヨーロッパ州で世界全体の生産量の約8割を占めており、パンや麺類の材料として世界各地で主食の原料となっている農作物はどれか。（2022年 和歌山県公立入試 類似）
- サトウキビ
 - トウモロコシ
 - 米
 - 小麦
- 問10 アジアの主要な国々である中国、ベトナム、インドネシア、日本の4か国の統計的な特徴を比較したとき、ベトナムの説明として最も適切なものはどれですか。（2020年 和歌山県公立入試 類似）
- 4か国の中で面積が最も小さく、日本への輸出品目では衣服類が上位に位置している。
 - 4か国の中で面積が最も大きく、日本にとって最大の貿易相手国である。
 - 赤道付近に位置する多くの島々からなる国で、石炭や天然ガスなどの資源輸出が盛んである。
 - 東アジアに位置する島国で、自動車などの機械類の輸出総額が非常に大きい。
- 問11 インド東部のガンジス川下流域などの熱帯地域では、年平均気温が約27度と高く、特に6月から9月にかけての時期に月間降水量が400mmを超える顕著な雨季が見られます。このような気候環境を活かして栽培され、繊維が穀物を入れる袋などに加工される農作物を次から選びなさい。（2025年 東京都公立入試 類似）
- コーヒー
 - ジュート（黄麻）
 - 茶
 - 綿花
- 問12 中国における農業の特色について、北東部から中東部にかけての比較的降水量の少ない地域で、主食の原料として盛んに生産されている農作物を答えなさい。（2022年 和歌山県公立入試 類似）
- 小麦
 - 天然ゴム
 - 米
 - 茶

答え合わせ・解説

問1	答え 4 韓国などの近隣諸国に比べて月額賃金が安く、かつ15歳から49歳の人口割合が高いため、豊富な労働力を確保しやすいという点。	ベトナムは近隣の韓国などと比較して、労働者の月額賃金が低く抑えられているというコスト面での優位性があります。さらに、人口構成において生産年齢の中核を担う15歳から49歳の人口割合が高い、いわゆる「人口ボーナス」の恩恵を受けている時期にあたります。このように、安価で豊富な労働力を安定して活用できることが、日本企業の進出が急増した背景にあります。
問2	答え 3 日本、アメリカ、中国、シンガポールなど、近隣のアジア圏や太平洋周辺諸国との結びつきが強い	フィリピンの貿易構造は、日本やシンガポール、中国、韓国といった近隣のアジア諸国と、主要な同盟国であるアメリカとの強いネットワークによって特徴づけられます。統計データにおいて、これらの国々が輸出入の相手国上位を独占している事実は、アジア太平洋地域における経済的な相互依存の強さを物語っています。歴史的な関係があるスペインや、地理的に離れたメキシコが中心となっているわけではありません。
問3	答え 1 日本は発電や輸送に欠かせない化石燃料の多くを、特定の地域や国に依存している。	日本のエネルギー自給率は低く、特に原油についてはその約9割をアラブ首長国連邦を含む西アジア（中東）地域からの輸入に頼っています。貿易統計において原油や液化天然ガスの割合が極めて高いことは、日本のエネルギー安全保障が特定の資源国との安定した関係に支えられていることを示しています。鉄鉱石や石炭は主にオーストラリアなどから輸入されており、産油国であるアラブ首長国連邦の主な輸出項目ではありません。
問4	答え 4 タイ	タイはASEAN（東南アジア諸国連合）の中でも特に工業化が進んでいる国の一つです。1980年代後半から日本の自動車や電気機器メーカーが数多く進出したことで、機械類や電気機器が主要な輸出品目となりました。また、冷凍の鶏肉（肉類）やエビ（魚介類）などの加工食品の輸出も盛んであり、日本にとって重要な輸入相手国となっています。原油輸出が中心のサウジアラビアや、衣類輸出の割合が非常に高い他の東南アジア諸国とは異なる貿易構造を持っています。
問5	答え 1 豊富な水資源を利用した稲作や、日系企業の進出による自動車産業の発達、チャオプラヤ川流域などの平野部における高い人口密度を支えている。	タイの人口分布は、自然環境と産業発展に強く結びついています。古くからの米の輸出に加え、近年では「アジアのデトロイト」と呼ばれるほど自動車産業などの工業化が進みました。こうした産業の基盤となるインフラが、水利の良い平野部や港に近い首都圏に集中していることが、当該地域の人口密度を押し上げる要因となっています。
問6	答え 2 夏に湿った空気を蓄えた季節風が、海から陸に向かって吹くため。	ガンジス川下流域などで降水量が多くなるのは、夏にインド洋などの海側から水分を多く含んだ季節風（モンスーン）が吹き込むことが原因です。この風が陸地で雨を降らせるため、この時期に降水が集中し、年間降水量も多くなります。反対に、冬の季節風は大陸から海へと吹く乾燥した風であるため、雨をもたらすことはほとんどありません。
問7	答え 2 労働力の月額平均賃金が安価であることを利用し、製品の生産コストを抑えるため	企業が海外に進出する大きな要因の一つに、人件費の削減があります。中国や韓国と比較して、ベトナムなどの新興国では労働者に支払う月額平均賃金が低く抑えられています。このような賃金の格差を利用することで、企業は製品を製造する際にかかる費用である生産コストを安く抑え、国際的な価格競争力を高めることができます。
問8	答え 1 人口抑制政策の影響などにより、少子高齢化が急速に進展している。	長年にわたる人口抑制政策によって出生率が低下した一方で、医療の進歩や生活水準の向上により平均寿命が延びたため、中国は世界でも類を見ない速さで高齢化社会へと突入しました。かつての若年層が多い人口構成から、現在は支える側が減り支えられる側が増える構造へと変化しています。
問9	答え 4 小麦	世界の主要な穀物の中でも、アジア州とヨーロッパ州を合わせると全生産量の約80%に達するのが特徴です。乾燥した気候にも比較的強いため、世界各地で栽培されており、人々の主食を支える重要な農作物となっています。
問10	答え 1 4か国の中で面積が最も小さく、日本への輸出品目では衣服類が上位に位置している。	ベトナム（約33万km ² ）は、中国（約960万km ² ）、インドネシア（約191万km ² ）、日本（約38万km ² ）と比較すると、この4か国の中では最も面積が小さい国となります。経済面では、日本の企業が生産拠点を中国から他の国へ分散させる「チャイナ・プラス・ワン」の動きもあり、ベトナムからの衣服などの輸入が増加しています。石炭などの資源輸出が特徴的なのはインドネシア、機械類の輸出が非常に多いのは日本です。
問11	答え 2 ジュート（黄麻）	インドのガンジス川デルタ周辺は、高温多湿な気候であり、特に夏季の降水量が非常に多いのが特徴です。この環境はジュート（黄麻）の栽培に非常に適しており、バングラデシュからインド東部にかけての世界的な生産地となっています。採取された繊維は、丈夫な性質を活かして穀物や砂糖を運ぶための袋（ヘッシャン袋）などに利用されます。
問12	答え 1 小麦	中国では「南稻北麦」という言葉があるように、降水量の多い南部では米（稲作）が、降水量の少ない北部や中東部では小麦（畑作）の栽培が盛んです。自然環境の条件に合わせて、アジア州の主要な生産地としての役割を果たしています。